

〔様式 1〕

事務事業評価表

1～11までは、担当課による評価

記入年月日	平成15年3月25日			
平成15年度	事業コード	15110	電話	042-754-3604
担当部課名	生涯学習部	図書館	奉仕	係
事務事業名	図書館自主事業費（図書館サービス経費）			

1 総合計画における位置づけ

政策名	第5章	いきいきとした生涯学習社会をつくれます	事業開始年度
基本施策名	第1節	生涯学習の推進	63以前年度
施策名	第1施策	生涯学習機会の充実	

2 実施根拠及び関連法令等

図書館法第3条

3 事務の区分

自治事務	4 経費の区分	5 事務事業の分類	6 受益者負担
	その他の経費	市単独事業	なし

7 事業概要

(1) 事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか	(2) 対象(誰、何)
図書館における児童サービスの一環として、幼児期から本に親しみ、読書習慣を育成すること及び保護者や児童サービス学習者に、本の選書やわらべうた等の実技指導を学習する機会を提供し、児童等の読書環境の充実を図ることを目的とする。合わせて、児童書の読書推進及び図書館利用者の増大と定着を図ることも目的とする。	幼児、または児童とその保護者、もしくは児童サービス学習者
	対象数 募集40人
(3) 平成14年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容	
児童文学講座・特別講座「宇宙人ってどんなふうなの？」 内容 対象年齢にあわせて、絵本・物語の選び方や与え方、わらべうたと手あそびの実技指導 対象 0歳～3歳くらいまでの幼児 4歳～小学校低学年 保護者、児童サービス学習者 特別講座 小学校4年生以上の児童、保護者 日時 平成14年11月2日(特別講座)、8日、12日、15日、19日 午前10時～正午 全5回 講師 ストリーテラー 石川 道子 元宇宙科学研究所客員教授 河崎 行繁 (特別講座) 報償費 24千円×5回=120千円 平成13年度までは、古典文学講座(全5回・募集180人)を実施した。	
(4) 個別計画の概要	概要
計画名	なし
計画年次	年度～年度

8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

	指標名	指標式	指標設定の意図	15,16年度は目標値 指標の推移(年度)				
成果指標	児童書貸出冊数比率(%)	児童書冊数÷図書全体冊数*100	児童書貸出冊数率から、講座実施に関わる貸出冊数への効果をみる	12	13	14	15	16
				27	27	28	30	32
活動指標	講座出席比率(%)	講座出席者数÷講座受講者数*100	講座出席率から、応募者の講座内容に関する充実度をみる	69	66	72	77	81

9 事業費等の年度別状況

〔金額単位：千円〕

		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
		決算	決算	決算	予算	予算(見込み)
事業費	決算(予算)額	120	120	120	107	107
	人員・時間数	2人・1.1日	2人・1.1日	4人・1.5日	4人・1.2日	4人・1.2日
	人件費	114	114	109	87	87
	その他経費					
	合計	234	234	229	194	194
特定財源						
対象数	308	570	144	160	160	
対象の単位あたり経費	0.8	0.4	1.6	1.2	1.2	

10 個別評価

(1)達成度 評価 A ▼	A : 達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	B : 一部達成していない		・活動指標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C : 達成していない		・事業目標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	児童書の貸出冊数の増加やおはなし会への参加状況から、講座実施による一定の成果が上がっていると考えられる。
(2)必要性 評価 A ▼	A : 適応している	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっている
	B : 一部適応していない		<input checked="" type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C : 適応していない		<input checked="" type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
			<input checked="" type="checkbox"/> ・国、県、民間、市民との役割分担から見て、市が事業を行う必要がある
		説明	「子どもの読書」を家庭や地域等で推進することが求められている中で、図書館としても積極的に支援していく必要がある。また子どもの読書に関する市民ニーズは、非常に高いといえる。
(3)有効性 評価 A ▼	A : 有効である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B : 一部有効でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C : 有効ではない		
		説明	子どもの読書習慣を育成するための、きっかけとして有効であると考えられる。また家庭等における読書環境醸成に寄与する事業である。
(4)効率性 評価 B ▼	A : 優れている	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B : 一部改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C : 改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている
			<input checked="" type="checkbox"/> ・同一対象者に対して同種のサービスが重複していない
		説明	本講座の費用対効果は適当であるが、今後は公民館等で子ども読書に関わる活動を行っているグループ等との連携を模索する必要もあると考えられる。
(5)公平性 評価 A ▼	A : 公平である	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B : 一部公平でない		<input type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C : 公平でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	講座の実施目的に合わせた募集をしている。また保護者に限定をせず、児童サービスを学習している者も対象としている。 図書館法第17条(無料の原則)を堅持したい。
成果向上の余地		事業費削減のために取り得る手段と削減額	
<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	説明： 子ども読書活動を支援しているNPOや実践的 活動を行っているボランティアグループ等が、 本講座運営へ参画することにより内容等の充 実を期待できる。	手段	講座の回数を減らすことにより、講師報酬費や人件費を 削減することが可能である。 (平成14年度 平成15年度)
		削減額	35 千円

11 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較
		県内及び近隣の同規模、特色ある講座を実施している図書館を対象に調査を行ったが、実施内容や回数、予算等は適当であった。今後の課題としては、他市で実施しているような読み聞かせやおはなし会等を図書館と協働で担うボランティアやグループの養成・育成を視野に 入れた講座の実施も検討すべきである。また工作教室等の実施による利用者の増大、定着を 図ることや講演会の開催により、図書館活動への理解、協力を求めていく努力も必要といえる。
今後の進め方		
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	総合評価に関する説明
<input type="checkbox"/>	見直し	「子ども読書の日」の制定など、子どもの読書活動を推進するための支援は必要不可欠 である。そうした中で、本事業(講座)は一定の役割を担っていると考えられ、これか らも継続して実施していく必要がある事業といえる。今後はさらなる、児童サービスに 関する市民ニーズや意識の変化の把握に努め、適切な事業内容や規模等を検討していく ことも重要であると考えられる。
<input type="checkbox"/>	廃止	
<input type="checkbox"/>	完了・廃止済	

12 二次評価コメント

--